平成十九年度

修士論文・卒業論文題目一覧

修士論文

国文学専攻

大谷弘至　三森幹雄とその門人の俳論の研究
西村美春　『枕草子』考―和歌から散文への軌跡
大貫正皓　藤原師輔研究―『師輔集』を通して―
小口敬子　「黒蜥蜴」論―女賊像の考察―
住谷はる　大伴坂上郎女の表現―「女歌」の視点から―
冨島　渉　森鷗外歴史小説―伝記・伝説との徹底比較―
本間　泰　坂口安吾『風博士』論―〈ファルス〉の構造とその行方―
和田健太郎　現代ミステリー小説における「男」「女」の考察

中国学専攻

最上桃子　『老子』に見る「母」について
小松沙希子　寺子屋における文字教育についての考察
齋藤建太　皇侃『論語義疏』における音韻認識の研究
佐久間八重子　李賀詩における「鬼才絶」の意味するもの
智　穎　唐代の日中文人交流
中里路子　陶淵明作品における『論語』の影響
三本尊紀　孟浩然詩にみえる陶淵明の影響
吉井涼子　九歌攷―成立年代に就いて―

国語教育プログラム

本田壮一郎　梶井基次郎の文学研究―「檸檬」を中心として―

卒業論文

※指導教員名による五十音順

国文学

磯　水絵教授

阿部紗代　『宇治拾遺物語』に登場する〈童子〉について
白鳥純二　中世説話における地獄観
杉田美樹　説話集の中の女性の生き方を探る
堀越真美　龍の説話について

江藤茂博教授

浅井菜緒　Queen 研究―女王凱旋から王者復活まで―
阿部　樹　乙一作品論～世界観研究とメディア比較～
荒木美香　『多重人格探偵サイコ』論―現実世界に入りこむ漫画世界―
石井美沙子　ストリップの世界
伊尻ますみ　宮崎駿作品研究論

岩瀬真理　メディア転移論―原作とその映像化の変遷―
大宅宏明　「ツバサ・クロニクル」「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」梶浦由記、佐橋俊彦へ
海東章人　オンラインゲーム研究
木村太一　『十二国記』研究～主人公の成長とその表現～
黒川奈緒　ガス・ヴァン・サントの映像世界～〝死の3部作〟をめぐって～
鴻池博美　『日本においてのミニシアター館の位置付け・特異性』
近藤由季　森絵都作品論
坂元康祐　宮崎駿の作品研究
島津紫　『パイレーツ・オブ・カリビアン』論
清水麻美　『ドラえもん』論
菅七瀬　「竹久夢二について～絵画と文学作品～」
高木愛弓　もののけ姫（宮崎アニメ）
髙田早季　「SLAMDUNK」論
髙橋真由美　絵本―こどもからおとなまでが楽しむ現代―
髙橋倫子　ミュージカル「オペラ座の怪人」―面白さと影響力について―
唯野小百合　『千と千尋の神隠し』論
土井由香子　小説「天にまします我らが神よ」
行木麻里子　非日常の世界　ティムバートン作品から
新堀茜　小説の書き方から見た、小説という物。
八代雄一　玩具研究～タイアップ商品としての玩具～
山戸美生　「きらきらひかる」にみる三角関係
横手咲恵　痴人の愛（ナオミversion）

大藏吉次郎特任教授

阿部節子　能楽の音
石井里枝　小道具から見る日本文化の変容
石川芽里　面について
石塚桃子　狂言の中に生きる武道とは
一木友紀子　判官物に語られる義経と弁慶の絆の強さ
大内利恵　喝食面を使用する謡曲の比較
大沼一恵　謡曲の構成とその成立背景～歴史・史実の関連～
髙野伸　戦国大名と能・狂言
中山早織　能楽の歴史と歩み

五井信准教授

大内浩之美　『パフューム』、その香水のメタファー
小川恵一　『驚愕の曠野』における非構造化
角田慧　ノンフィクションの中のフィクション
森田康裕　絲山秋子作品　方言と標準語とコンプレックス
伊藤直美　『キッチン・デットエンドの思いで』から見る空間。
海老根麻友　『メトロポリス』は二度反転する
大場葉月　吉本ばなな論～初期作品を中心に
木村舞　文学の中のコーヒー―村山由佳に焦点をあてて―
栗山幸子　行為としての「名付け」―実体を持たない亡霊た

佐藤暢子　『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論―並行する二つの世界―

竹村拓勇　世代の差についての考察　夏目漱石と吉本ばなの場合

田崎公理　『ドグラ・マグラ』論

田谷直子　『牛女』論―境界を中心に

冨田祐介　境界で踊る～町田康「告白」を巡って～

内藤美咲　都市空間であがく若者たち―『コインロッカーベイビーズ』と『カリフォルニア物語』―

中山晴仁　『吾輩は猫である』論―明るい青少年のカルチュラル・スタディーズ―

星野厳起　『インディヴィジュアル・プロジェクション』論―戯れる人格―

松原里美　『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論―空間からの母胎回帰―

松本幹太　『砂の器』のリアリズム―境界を支配する者とされる者―

宮沢一正　山田風太郎『警視庁草紙』～江戸と明治の二律背反～

野吾枝里　『あぶさん』論―長期化する物語―

根元麻衣　イーハトーブとグスコーブドリの伝説

小柳雅博講師

太田康文　日本神話における夜空の神々

岡田綾乃　「八雲立つ出雲」歌の考察

中西梨那　古代社会にみる言語呪術

藤巻美貴　鳥と古代思想―葬送儀礼との関わりを中心に―

松田江美子　三貴子誕生神話の研究

塩田今日子教授

酒井麻央　跆拳道（テコンドー）の歴史と分裂における諸問題

久保雄輔　人の考え方と意識～男と女という二つの世界～

鈴木洋平　日本の音楽と韓国の音楽について

小久保一樹　僕らの生活を変えた〝白いイヤホン〟～ipodの爆発的普及の秘密～

東明美香　ホラーにおける女性の役割

土山萌子　ムーミン童話の世界

外山智子　今までの私について

中野聡子　アパレルの歴史について

野澤瑠美　子どもの言語習得

橋本信哉　過去、未来

馬場昌彦　レッドホットチリペッパーズについて

引田晴夏　NO SNOW NO LIFE

星野明有美　老後の楽しい過ごし方についての考察

岡田優　ソリ・ハナ

髙山裕史　シェイクスピア作品ハムレットの、日本語及び現

代版の制作

増田怜美　「真のしつけとは」～時代の流れによるしつけの変化～

室伏麻里子　소리 하나

森　博希　これからの自動車社会について

山崎奈保美　人は何故Blogを始めるのか

渡邊応行　〝大人〟について

小山聡子専任講師

天野　全　日本における幽霊の研究

石井和仁　神仏と穢れの研究

久保田祐介　キリスト教・仏教における地獄思想の比較

菅原初美　『源氏物語絵巻』における色の概念

鈴木美早子　日本中世における仏教と象の信仰

竹内　啓　平将門伝承の研究

戸舘逸子　室町時代における稚児の研究

保々綾子　酒呑童子の研究

佐野智子　古代中世における十王信仰と閻魔

島田泰子准教授

小山　優　バイト用語の日本語学的考察

中野綾子　助詞「は」の持つ役割について

渡辺尚輝　語幹を同じくする類義語―「囲む」・「囲う」とその周辺―

白井雅彦講師

阿久津真美　『おあむ物語』・『おきく物語』全訳注～戦乱を生きた女性たち～

芹川哲世教授

沈　日成　中国の朝鮮族における中・高校日本語教育の実態

五月女肇志専任講師

眞崎倫子　『百人一首』研究

瀧田浩准教授

長田秀明　『永遠の仔』の世界

大竹　慧　シロップ16g論

綿貫一才　夏目漱石「こころ」論―「心を捕へ」を足掛かりにして

赤間雄一　志賀直哉「或る男、其姉の死」論～志賀直哉の「反省の文学」として～

磯貝歩美　志賀直哉「転生」研究―志賀直哉が伝えたかった物―

板垣勝洋　鳥山明『ドラゴンボール』論―大人になっていない孫悟空―

江澤祐輝　夢枕獏『陰陽師　生成り姫』論―雅の都に潜む明暗の境界―

荻原奈々子　村上春樹「めくらやなぎと眠る女」論―現代には

小澤知恵　びこる「闇」を見つめて―
川村真以　北條民雄「いのちの初夜」論
小林つづみ　菊池寛『無名作家の日記』論
　東野圭吾「手紙」研究―「手紙」による罪と罰からの救い―
塩田樹彰　夏目漱石『夢十夜』論～「第三夜」とその暗さ～
島田瑠美　登場人物から見る現代の闇
鈴木麻菜実　芥川龍之介「蜘蛛の糸」研究―原典を探って、隠された意味―
中地彩佳　宮澤賢治「なめとこ山の熊」論
箱崎あゆみ　谷崎潤一郎「秘密」―虚構化された世界―
畠山徹也　宮本輝『螢川』論
平島蕗子　志賀直哉「范の犯罪」論―自我肯定の裏に発生する人間性をめぐって―
平原敬大　武者小路実篤「わしも知らない」論―原典比較から考えられる当時の武者小路の到達点―
柳田章宏　武者小路実篤「二つの心」「『嬰児殺戮』中の一小出来事」論～二つの自己の迷いをめぐって～
山岡卓矢　武者小路実篤「友情」論～自己形成における友情の変化～
湯淺梨沙　千家元麿論―詩の特徴とやさしさの根源をさぐる―
吉岡あずさ　ポルノグラフィティ論―「アポロ」と夢をめぐって―
若林鮎美　太宰治「トカトントン」論―太宰からのメッセージ―
山本菜花　江國香織『きらきらひかる』論―新しい絆を求めて―

谷口貢教授

髙橋勇樹　巫女の宗教文化
芦沢聖実　猫と日本人―その歴史と文化―
石川夏子　誘う者と誘われる者―神隠しと異界交流の文化―
石川萌　妖怪の生成空間―怪異譚の発生をめぐって―
大塚真人　近世の生活文化―江戸に生きる人々を中心に―
岡本泰子　鬼の伝承と日本文化
柏原一仁　異類婚姻譚の一考察―神話・伝説・昔話をめぐって―
神澤ひとみ　山岳信仰の展開―榛名山信仰を中心に―
熊谷遥　祭りと日本文化
栗田みなみ　通過儀礼と日本文化
坂井友美　年中行事の構成―現代的意義について―
鈴木尚史　妖怪の民俗文化
高瀬良太　死者祭祀の民俗―日本人の死生観をめぐって―
髙塚磨衣子　地震と日本人―「鯰絵」の世界―
田中純弥　昔話と日本文化―「桃太郎」を中心に―
田中大善　子どもと日本文化―伝統的教育を中心として―
田仲正明　陰陽道と日本文化―陰陽師をめぐって―
田村蓉子　妖怪伝承と日本文化―河童の形成と展開―
西井美雪　木遣り唄の民俗誌―その伝承と系譜をめぐって―

西江華奈子　桃太郎伝説の展開―吉備津彦命の鬼退治をめぐって―
野口綾香　近代の生活文化―和から洋への変遷を通して―
福地奏子　オシラサマの民俗学
緑川絢子　狐と日本人
三原智栄　装いの文化史
柳沼　芳　まじない札の宗教文化
尹　京愛　都市の怪異
米山賢太朗　都市伝説―その生成と展開―
六角広紀　天狗信仰の成立と展開

林　武志教授

小林　晶　樋口一葉作品におけるヒロインについての考察
齋藤　聖　芥川論
新海　明　樋口一葉の一生が与えた『にごりえ』に対する影響
菅野智士　芥川龍之介論
松本春菜　中島敦研究

原由来恵専任講師

新井千晴　『枕草子』の斉信像～清少納言にとっての斉信～
池端真衣　中関白家と『枕草子』～主家を魅せる清少納言～
石橋節代　語り継がれた『枕草子』―言葉の選択―
大木貴幸　平安朝文学からみる陰陽師
大野　舞　清少納言の音楽観―三巻本『枕草子』「笛は」章段を手がかりに―
金子承代　平安貴族の音楽像～楽琵琶を中心に～
小池文子　ハレの餅の概念～平安物語文学からの考察～
河野佳代子　後宮に生きる人々　―清少納言編―
鴻池美香　『枕草子』の基底～清少納言の舞への視線～
坂本亜寿美　清少納言と藤原斉信
城井久美子　『枕草子』豊明節会の夜について―五節の舞と清少納言の思い―
菅谷恵里　三巻本『枕草子』「神は」章段攷～神の名とその配列～
関根あゆみ　『伊勢物語』花のめぐみ
高島優賀　女房の存在意義―『源氏物語』に描かれた姿―
戸田圭亮　地名類聚章段研究―「関は」章段の解明―
早川　恵　清少納言の意識―「うつくし」とは何か―
平松菜穂子　三巻本枕草子・宮仕えする女たち
藤田洋子　女が出家するとき―『源氏物語』を手がかりに―
堀岡麻衣　古代人の七夕への意識
馬籠　文　清少納言の男性観―三巻本『枕草子』「男こそ」章段にこめられた想い―
結城　剛　三巻本『枕草子』における一本の存在意義と成立過程および他伝本との関係性
増田尚子　中関白家～藤原道隆の栄華～

林謙太郎教授

青木　岬　女性語の編纂
安藤直毅　スポーツと言葉の壁
安藤真紀　現代における方言
飯島直樹　日本語教育について
飯田　杏　落書き～匿名という社会
伊東理紗　お嬢様ことばについて
井戸端亮　日本語の変化（乱れ）について
井村幸太　野球とサッカーを比較しての今後の提案。
祝田美沙子　岩手県のことば、歴史、文化について
岩下由佳　「江戸時代における吉原風俗」
岩村　涼　若者が使用する言葉の種類と意味
小野祐一郎　言葉はどこまで正確に伝わるのか
金子真弓　コミュニケーションと若者言葉
川畑泰則　日本語コミュニケーションについて
桐ヶ谷芳宣　方言（大阪弁・沖縄弁・ハマことば）について
島﨑留衣　日本人の名前と音相論
鈴木智大　「日本語」について
鈴木美香　福島県方言における「ハー」について
高山　彩　漫画『ＢＡＳＡＲＡ』の研究
田代彩子　ことばの表現方法と伝達の仕方
東條菜恵　現代生活と茶道
永見祐良　ＳＮＳを利用した新しいコミュニケーション形態の研究
西田弘史　インターネット上における会話―文章で会話をする世界―
橋本　渚　日本語の変遷と現在
深野　潤　トイレという言葉について
松本卓也　日本語コミュニケーションについて
宮本彩加　女性語・男性語について

針原孝之教授

飯塚　慧　万葉集と四季の歌
荷堂　紳　防人歌について
栗原一真　万葉の鳥
小寺孝平　大伴旅人研究―大宰帥時代―
佐藤正樹　万葉びとの生活と文化の研究
志賀純友　磐姫皇后研究
四ノ宮麻衣　東歌の研究―常陸国を中心として
髙須美幸　季節の萬葉歌
永井彩香　高橋虫麻呂研究
中澤千尋　山部赤人研究―叙景歌人として―
平井貴弘　古代文学における言霊信仰
平野芽以　大津皇子研究
諸伏勇太　柿本人麻呂宮廷挽歌研究

増田裕美子教授

阿部悟士　それから～代助の心の変化～

高橋　翼　『虞美人草』とシェイクスピアの比較
大野利恵　漱石の短編とその人物像
小金澤恵　「漱石作品からみえる漱石と絵画」
小林ひろみ　『虞美人草』―今風の女・藤尾とは―
堀越多恵子　夏目漱石とシェイクスピアの関連性
渡部恵美　夏目漱石の作品における恋愛
浅野　誠　『こころ』における先生の自殺について
内山辰寿　漱石作品における道化的存在について
小野彩花　漱石の花と色における女性の構造
土佐哲朗　日本神話と北欧神話の比較
星野真惟　『門』における人間―記号が導く新たな解釈―
増田しのぶ　『虞美人草』における絵画

緑川佑介教授

足立奈穂　中学校国語教科書「表現教材」の分析
伊藤　崇　各教科書会社の異なりを分析する
久我　覚　草野心平の作品から蛙の考察
成嶋真千子　中学校国語教科書における「小説」の分析
林　達哉　観点別評価の一考察
三橋道順　中学校国語教科書における『竹取物語』の指導について

森野　崇教授

片根隆博　茨城方言についての研究
長瀬　匠　「にほん」と「にっぽん」の歴史
野村憲仁　新語と流行語
石塚久美子　略語についての研究
大田里絵　「あなた」についての研究
辻村さやか　呼称「～ちゃん」についての研究
山下淑恵　「ら抜き言葉」についての研究
吉田　剛　漫画における登場人物の言葉遣いについての研究
山﨑真美子　「すみません」についての研究

矢羽勝幸教授

浅利涼介　花鳥風月
稲垣宗一　「松尾芭蕉の正体」
栗田祐次　松尾芭蕉の生涯と作品を辿る
佐藤聡美　自作句集・俳論
杉　来美　句集と俳論
鈴木岳史　俳句（実作）
廣瀬雅俊　現代俳句
吉岡宏美　松尾芭蕉「奥の細道」における時代背景と心情
吉野明佳　松尾芭蕉「おくのほそ道」旅行の事実
若月　工　句集『千紫万紅』と俳論　四大俳人と時代背景

山口直孝准教授

安藤有紀　宮本輝『避暑地の猫』論―修平の中に潜む魔―
内村伯実　山本文緒『ブルーもしくはブルー』―結婚をめぐ

る二つの依存―

江川早紀　夏目漱石『こころ』論―擬似親子としての「先生」と「私」―

小野結以　『いま、会いにゆきます』論―SF的想像力と家族の物語―

加瀬瑞希　『地下鉄（メトロ）に乗って』の旅―真次を支える母性―

塩入蓉子　『春琴抄』創造のエゴイズム―谷崎潤一郎と「芸術の神」―

髙橋哲也　誤読の劇場―唐十郎『佐川君からの手紙―舞踏会の手帖』論―

筑間信介　叙述トリックの果てにみえるもの―『螢』と『イニシエーション・ラブ』にみる新本格ミステリの行方―

戸部正博　『万延元年のフットボール』の二人の主人公―行動の根所を追って―

野山裕美子　石田衣良『うつくしい子ども』論―神戸児童連続殺傷事件との接点―

橋本麻衣子　『智恵子抄』攷―愛と芸術の証明―

平原希和子　『シグナルとシグナレス』における恋愛―近代化の枠組みと抑圧への反抗―

三原秀友　配列の論理―構成から見た『夢十夜』―

渡部孝洋　『彼岸過迄』論―逆転する性差―

山崎正伸教授

川島貴史　伊勢物語の男の性格

佐瀬恵里香　中務詠歌に含まれる歌語について

丸本瑛子　平安時代の文学にみられる葬送儀礼

阿曽剛志　『大和物語』の姥捨山について

安藤瑞穂　国語教育と古典

金井智美　『落窪物語』における登場人物の役割りと、巻四の存在について

木本綾　『堤中納言物語』と同時代の作品の類似性

本庄悟　竹取物語の物語性について

村川絵美子　『紫式部日記』における清少納言批判の様相

渡邊了好教授

武藤潤　「インターネット上における人間関係の形成および総括的特徴」

武政佑一朗　中国から渡来して来た妖怪について

海老原進　ホテルについて

小川裕二　「ホテルについて」

奥山愛美　日本の学校図書館の歴史とアメリカの学校図書館の違いについて

香山鼓　結婚と結納―日印文化比較

久保東子　武士道から見た日本人

粂原杏子　『オリエント急行の殺人』における翻訳の問題点について

齊藤　香織里　日本語教育初級における自動詞・他動詞の教授法（教案作成と教材作成）
清水　春衣　日本語教育で使われる教科書と教材について
田口　理恵　日本とフランスの比較研究
但馬　勇介　隠語（専門用語、スラング等）について
田村　諒子　日本語初級教授における受身の教授法の作成
千田　玲央奈　国際結婚について
中川　佳大　サッカーの応援について
中園　未緒　『ピープル・ウォッチング』
根本　恵利子　日本の手紙文化について
塙　紗由里　現代にみるオタク文化
深江　隆志　外来語の流入と日本語化について
藤井　香里　〝女らしさ〟は今後なくなってゆくのか
藤原　恵里　「日本の服装文化」
前田　承子　『アラビアン・ナイト』の異文化圏移入における文学作品の多面的意義について
三部　真弓　顔文字の研究―日本語と英語の比較―
四ッ井　梓　子どもの第二言語教育（「バイリンガル教育」について）
米原　理　マナーについて
渡邊　静　日本人の名前と歴史
渡辺　ひろみ　昔話について

中国文学

浦野俊則教授

阿部　百合恵（作品制作）「蘭幽香風遠」額
安藤　友里（作品制作）臨　毛公鼎屏風
岩本　宏美　空海と風信帖
大河原　雅代（作品制作）香紙切臨書
大里　麻文　空海の学書とその書風
大橋　裕太　智永、虞世南と書文化について
大和久　祐理香（作品制作）臨書譜巻
奥谷　愛美（作品制作）臨智永真草千家文
小野　早百合（作品制作）李白・子夜呉歌額
上川　雅央（作品制作）あなたの為に活きている（岡平健治）額
小泉　範晃（作品制作）漢字臨書―藤原佐理恩命帖―
小林　弘友紀（作品制作）西行・山家心中集より（軸）
近藤　威（作品制作）花鳥風月・和歌四首軸
酒井　美翔（作品制作）得友愛（木刻）
新木　秀弥（作品制作）魚驚水渾（創作）
返町　倫子（作品制作）「祭伯文稿」臨書
髙城　遥子（作品制作）童謡・春夏秋冬屏風
高橋　香奈（作品制作）臨高野切第一種
高橋　爽香（作品制作）貴有徳（木刻）
土屋　満希子（作品制作）蛍雪之功（木刻）
中村　朋美（作品制作）臨蘇軾黄州寒食詩巻

並木絵美（作品制作）道（金文）額
藤枝大子 創作・唐宋詩四首（巻）
藤本浩江（作品制作）格物致知（木刻）
望月真里（作品制作）刻硯二種（鳳凰紋端渓硯・雄勝硯）

大地武雄教授

加藤遼一 陶淵明の飲酒詩について
荒江健志 陶淵明の飲酒詩について
大川桃代 陶淵明の死生観
柏崎亜美 陶淵明の処世観について
栗原奈都未 陶淵明の人間愛
齋藤恭子 陶淵明の処世観
佐々木泰平 陶淵明の死生観
島枝理子 陶淵明の処世観
嶋田美亜 陶淵明の死生観
茅根 均 陶淵明の処世観について
野平雄大 陶淵明の飲酒詩について
平田直樹 陶淵明の処世観
星野桜子 陶淵明の処世観
宮川遼子 陶淵明の人間愛
吉野はるな 陶淵明の死生観
渡邉涼太 陶淵明の死生観

酒井淳吉教授

髙松洋平 現代中国語語気系統について
大貫祥子 介詞句の構成について
中井川 巧 介詞の問題について
藤木真純 趙金銘氏の『漢語研究与対外漢語教学』について
保科修男 迷の奸雄・魏武帝曹操
町田早織 「現代漢語語誤」について

髙澤浩一専任講師

齋藤俊英 空海とその書について
相崎成彦 石門頌について
青柳順子 王鐸の生涯と書
青山慶太（作品制作）漢字・かな交じりの書
飯田美保（作品制作）漢字仮名交じりの作品制作
江口友香（作品制作）「黄庭經」臨書 王羲之作
大島友美 「月のしずく」について
神野絵美（作品制作）書道作品制作（臨・曹全碑）
齋藤由香 喪亂帖
霜鳥亜衣 「寸松庵色紙」
墨谷桂子 『祀三公山碑』について
染谷彩子（作品制作）中務集について
髙﨑莉那 『継色紙』について
鳥越 歩 空海「忽披帖」について
西澤奈央子 「道程」の創作について

松崎　愛　米芾（蜀素帖）
森泉雄太　漢代の名品〜曹全碑について
綿貫祐子　見えない翼

高山節也教授

鳴海まどか　我が国現存の楚辞の書誌学的研究
和田千尋　楊雄　方言について

竹下悦子教授

太田瑛子　中国文学における虚構性の意味—閨怨詩を中心に—
岡崎嵩　王維と送別詩
細川直吉　清代の詩—中国最終王朝における詩の特徴
村上桂子　中国植物文化史の一考察—花卉語をめぐって

武永尚子教授

伊藤麻美　中国の十二支文化について　また、日本の十二支文化との比較
國井優里　日本と中国の五節句について
小国由夏　中国の点心を中心とした食文化について
鈴木あゆ美　『三国志演義』に見られる女性
中田恵　漢方に用いる薬草についての考察
松本恵　中国の民族衣装についての考察
宮崎道子　台湾問題について
山口ゆき子　中国茶と日本茶の種類とその特徴
横山早紀　中国における道教と民間信仰の相違について
新馬場梨菜　現代日本人の中国観

田中正樹教授

大内幸弘　宋代文化研究〜宋代に生きた人々の文化の特質
笹栗暁　二程子研究
大川雄太郎　中国における龍信仰について
大塚信久　「仁」の研究〜孔子と朱熹の足跡を追って〜
小川祐司　アジア共同体の新構想
川原啓　宋代変法運動の研究とそれに関わった人物
佐野亮介　王安石の新法とその評価
清水航　宋代民間信仰の在り方—夷堅志研究—
霜村真志　権力者と民衆が求める道教の比較
野口睦実　教養から見た日中女性比較—宋代と平安朝を中心に—
林史　徳治から法治への変遷
藤沢聡　文同の墨竹と蘇軾の絵画論
宮内一成　国家滅亡の主だった要因（北宋の場合）
山崎麻由美　三国志〜正史と演義の人物像の違い〜
山田康介　蘇軾から見た王安石改革

張明輝教授

葛西未央　日・中の美意識の比較研究〜女性の服装を中心と

して

大木桂子　日本と中国の結婚についての比較研究

大島良子　日・中の遊郭の社会的地位の比較研究―存在意義と習俗を中心として―

大曽根敬大　日・中の正月の比較研究

橋木信二　日本と中国の現代詩における表現技法の相違性について

木村義仁　日本人と中国人との犯罪化の比較研究

小堀啓介　日本と中国の漢字の比較研究～漢字の構造について～

小宮山里紗　日中の音楽についての比較研究～古代を中心として～

佐々木郁美　日・中の庭園の思想と変遷の比較研究～桂離宮と頤和園を中心として～

清水紘美　日本と中国の七夕の比較研究

高橋果絵　日・中における食材の比較研究

長山早紀　日・中における結婚様式の比較研究

根岸みお　日本と中国における死の儀礼の比較研究

根本貴透　日・中両国の近代の社会福祉の比較研究～高齢者福祉を中心として～

宮本裕加　日・中における環境問題についての比較（現代）

望月賀恵　日・中のお茶の比較研究（起源と歴史を中心として）

渡邊述裕　日・中の生活文化比較研究～衣・食・住や思想・宗教を中心として～

野村邦近教授

武石憲明　『魯迅研究』

松広彩　初期魯迅研究

源川進教授

鈴木数正　比田井天来の生涯

吉田奈穂　幕末の三筆巻菱湖の人物像と書

平野美樹　良寛の清貧思想―人間性・書・詩・和歌を巡って―

横須賀司久教授

渡部祐也　李白の生涯

飯田旭　日中関係の未来

石井久美子　中国の詩人…李白と杜甫の詩の比較

石田博之　日中戦争について

井田悟貴　「唐の文化について」

猪口真矢　李白と杜甫の作品比較

大川内雅人　李白について

大沢祐一　李白について

大山達矢　杜甫と李白の優劣

小川陽香　漢字の成り立ちとその背景について

押川優惟　李白の詩

押山綾子　文字の成立と書家の人々について
笠原清美　李白の人生観について
勝俣友美　文字のルーツについて
小南貴明　李白と杜甫の比較
酒作達也　中国文化と日本文化の比較について。
佐藤　拓　中国の歴史について
清水亜光　李白のうた
鈴木亜季子　中国思想の歴史について
竹島慶彦　『杜甫〜国を思う優しき父〜』
中村　新　村上春樹についての研究
機村直義　李白の生涯と作品
早野飛雄馬　李白の人生〜「ふれあい」のカタチ〜
松田幸子　夏目漱石と文学―『こころ』について―
宮口裕太郎　李白の人体解剖
村越絵理　食文化の比較

吉崎一衛教授

宮野剛彰　中島敦「名人伝」を考察する〜中国古典文学との関連から〜
山岸奈生　『杜子春』と「杜子春伝」の比較
鈴木秋穂　「李陵」論
井上未来　中島敦『山月記』論
濱﨑茉実　「杜子春」と「杜子春伝」
吉田早希　『山月記』と『人虎伝』

斉藤悠一　『山月記』論